

平成 29 年 10 月

第 15 回「上方の会分科会」お知らせ

特定非営利法人成育環境研究開発機構

理事長 岩本 康男

(担当：伊藤 080-3825-2268)

前略 今般、下記のとおり「上方の会分科会」を開催いたします。講師の山下氏はその方面では有名な方で、書籍では味わえない解説が期待されます。是非参加して下さい。**締め切りは 10 月 23 日 (月)** 必着とさせていただきます、①分科会の名称、②名前、③住所、④連絡先を記入の上、下記の E-mail または FAX までお申し込み下さい。

FAX : 06-6202-5851

E-mail : tito@wonder.ocn.ne.jp

なお、島之内芸能文化協会の方は、直接山下講師に申し込んで下さい。

●「秀吉の都市構想と堺茶道の変質」

山下 孝夫 氏

NPO 法人「なにわ創世塾」理事

島之内芸能文化協会会長代行

京都経済短期大学非常勤講師

日 時：平成 29 年 10 月 31 日 (火)
午後 3 時～午後 4 時 30 分

場 所：島之内「道仁連合会館」
中央区島之内 2 丁目 12-9
電話：06-6211-7310

主 催：特定非営利法人成育環境研究開発
機構

協 力：島之内芸能文化協会

会 費：

NPO 法人会員と会員紹介者及び
島之内芸能文化協会会員は無料
その他は資料代として」¥1,000-



【講演概要】

秀吉は大坂をどう町作りする計画だったのか。その計画はなぜ江戸幕府に引き継がれなかったのか。あまり巷間には知られていません。なぜなら江戸幕府の町作りは（私は評価しないが）ずっと評価されているからです。秀吉の計画は堺との関連で研究できる。秀吉は畿内を統一して最後の敵は紀州の根来寺や雑賀の一向一揆だけになった。それを大軍で攻めて絶滅し、刀狩をやったのが1585年、続いて四国、九州を制覇していった。

秀吉はこの1585年に、堺を見離して、博多を復興し大陸貿易にでていこう、いや侵略してもよいと決断していたという説を私は支持する。それには堺と茶道史の知識がいる。堺は信長に屈服した代わりに、鉄砲の販売で巨利を得た。利休も得たし、そのとき茶道が政策に使われた。永久的財産としての名物茶器の売買であった。宝石みたいなもの。そこで堺と大坂城を直結する道路がつくられ始め、秀吉は天皇家を大坂に移転して支配する計画まで持っていた。だが、全国制覇の可能ななかで堺より博多に秀吉は関心がいった。もともとは博多の豪商神谷宗堪の信長への入れ知恵であった。本能寺砦（寺は没収されていた）の信長暗殺は宗堪歓迎の大茶会の前日だから、堺が加担した陰謀とも言われている。

さて、茶道史は産業である茶道家の代々の盲信する嘘で固められており、歴史学者はタッチしてこなかった。茶道史のなぞを解明することは秀吉時代の謎に近づくことになる。すなわちようやく最近言ってもよくなってきた秀吉と利休の素性の問題である。過去に家康について書いた学者も地位が危険になった。明治維新の悪口もごく最近の話題。このさきは、文章にするのがはばかられるので当日をご期待ください。

（山下孝夫）